

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		児童デイサービス わくわく		公表日		2025年 3月 25日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		6	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		4	2	・兼務の職員もいるため、職員数としては適切である。	・ドライバーの不足を感じる。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		5	1	・ホワイトボードやタイムタイマーなど、視覚的支援のほか、仕切られたスペースがある等、プライバシーや個人の特性に応じた環境が設定されている。	・「静」と「動」の空間をしっかりとわけた環境が必要。課題に取り組む空間とおやつ、遊びなど、リラックスして過ごす空間はわけるべきだと思う。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		5	1	・日々、掃除等を行い、環境を整えるようにしている。 ・安全点検を行っている。	・広い部屋で空間が1つであるために、走り回ったり、ボール遊び等、心が解放されすぎる。職員の不要な注意が増えてしまう。 ・安静室にあたる部屋（避難部屋、落ち着かせる部屋として）がもう1つあればいいと思う。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		・安静室があり、子どもの状態に応じて落ち着ける場所としても活用できる。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		4	2	・活動や訓練においてはマニュアル作成や振り返りを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5	1	・保護者評価の内容は職員間でも共有する中で業務の改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		5	1	・普段から話し合う機会がある。	・新しい取り組みや提案を試してみたい。 ・いろいろな発見や改善につながるきっかけづくりを試すことが必要。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	2	・サービス向上委員会の開催。	・委員会での意見を参考にしながら、業務の見直しと改善につなげていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6		・同じ職員が参加するのではなく、それぞれに機会がある。 ・研修も内容によって受講者を決め、報告書の形で記入を行い、全体に内容を共有している。 ・職員全員で意見を出し合い、作成している。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		6		・定期的にモニタリングや面談を行い、共有して会議等を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6		・会議の時間を設け、職員同士で意見を出し合い、子どもの課題や成長面についての共通理解を図っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6		・会議の中で支援の方向性を話し合い、日々の支援の中で実践するようにしている。	・子ども支援の中で疑問に感じることやズレを感じた時に、それを発信することで、振り返りの機会をつくっていく。 ・失敗例、成功例を一緒に共有することで、次の支援につなげていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		5	1		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。		5	1	・モニタリングの中で、子どもや保護者の意向も確認しながら、支援計画所に反映させている。	・「家族支援」について、家庭環境が複雑な児童も多く介入できない部分もあるため、子どもに必要な支援を家族支援とリンクするのは難しく、支援内容を共有できない一面もある。 ・ガイドラインの内容についての確認は必要。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。		5	1	・日々の業務の中で話をする時間をもっている。	・全体で話をする時間をもつことができず、職員それぞれの考えを共有する時間は必要である。 ・子どもの意見も聞きながら、できるところは取り入れていく。

の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・週ごとに担当制にしており、活動内容がかぶらないように工夫している。	・同じ活動であっても、そこに少しアレンジを加え、工夫をもたせていく。 ・そのための知識の習得や職員間での意見を出し合うことが継続して必要。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		・モニタリングや現場の意見をもとに、個別と集団の活動での達成目標も考えながら、作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3	3	・送迎等、ホワイトボードに示すことで一目でわかるようにしている。	・打ち合わせの時間を十分にもっているとはいえ、その時間の確保が必要。必要であれば、業務の見直しも行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2	・必要などころや急ぎの物は全体に伝えるようにしている。	・打ち合わせの時間を十分にもっているとはいえ、その時間の確保が必要。個々の職員同士の口頭でのやり取りにとどまっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・一人ですべてを記入するのではなく、分担している。	・記録したことの振り返りの時間が持ておらず、支援の検証や改善にはいかせていないところがある。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・半年に1度モニタリングを行い、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	2	・総合的に組み合わせた中での支援を現場で考え、実践している。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・活動場所や集団活動への参加等、自分で選択する機会をつくっている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・対象児童がいる場合は、参加するようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	・法人内のこども園や診療所など、関係機関と連携できる体制がある。	・いざという時の連絡先や緊急時の時のことなど、職員がそれぞれに把握しておくことが必要。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		・お迎えに行った際には、学校との引き継ぎを必ず行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		・対象児童がいる場合は、関係機関との情報共有を図るようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	・対象児童がいる場合には、関係機関への情報の提供は行っていく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	2		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	・子ども支援部会に参加。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・送迎を通して、その日の子どもの様子等、日々のやり取りを大切にしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3	・研修の情報提供は行っている。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・利用時には、丁寧に説明を行うようにしている。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・モニタリングの中で、子どもや保護者の意向も確認しながら、支援計画所に反映させている。		
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		・どの保護者に対しても作成した支援計画書の内容を説明した上で、交付しています。		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・保護者から相談があった際には、タイムリーに応じ、話を聞くようにしている。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	1	・保護者会の機会がある	・開催の時期については検討の必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		・通信を定期的に発信している。	・記載内容や記載方法については、工夫を行っていき、わかりやすく見やすいものを作成していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・鍵付きのロッカーで保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3	・定期的に訓練を行っている。	・今後も火災や、地震等、様々なシチュエーションを想定して行っていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		・定期的に訓練を行っている。	・作成しているBCPについて、必要に応じて見直しを行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		・ヒヤリハットについてはその都度共有をして、記録も残すようにしている。	・職員によりヒヤリハットの捉え方にちがいがあある。些細な事であっても感じたことをオープンにすることで、大きなケガや事故を防止することにつなげていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・年に1回以上は研修をしている。 ・会議の中でも日々の支援について考える等、虐待について取り上げ、共有するようにしている。	・研修を今後も継続して行う中で、虐待や身体拘束についての知識を習得し、理解を深めていく。 ・チェックリストの活用をする中で、日々の支援の見直しを行う。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1			